

長野濬平翁生誕200周年記念事業

熊本県の近代蚕糸業の祖

参加費
無料

定員400名

ながの しゅんぺい 長野濬平翁 生誕の地 山鹿からシルクの郷へ紡ぐ未来

山鹿市出身で、熊本県の近代蚕糸業の祖である長野濬平翁の生誕200周年を記念し、翁の偉業を顕彰するとともに、現在と未来の蚕業を考えるシンポジウムと関連イベントを開催します。

とき 2023年10月15日(日) 午後1時30分～(開場午後1時)

ところ 山鹿市民交流センター(市役所隣) 文化ホール ※公共交通機関をご利用ください。お車の場合は山鹿市役所と熊本県鹿本地域振興局の駐車場をご利用ください。

長野濬平翁について

江戸後期、庄村(現在の山鹿市鹿本町庄)の儒医の長男として生まれた長野濬平が、幾多の困難を乗り越えながら熊本県の蚕糸業の祖と呼ばれるまでに至る生き様とその偉業について、スライドを交えながら説明します。

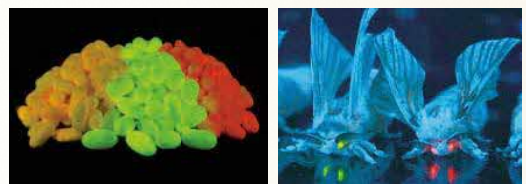
説明/岩井 賢太氏(長野濬平翁顕彰会事務局長)



基調講演 動き出した「蚕」業革命



講師
瀬筒 秀樹氏
農研機構研究領域長
東京大学客員教授



日本の高度な養蚕技術とバイオ技術を活用した「蚕」業革命が動き始めています。これまでにない高機能シルクが開発され、カイコによる医薬品原料等の生産も実用化され、衣料だけでなく医療・工業分野等での利用拡大が期待されています。

パネルディスカッション

テーマ:「山鹿からシルクの郷へ紡ぐ未来」

コーディネーター 瀬筒 秀樹氏

パネラー



「小学校での蚕飼育」

坂口 静磨氏
(託麻南小学校教諭)



「医療材料として期待されるシルク」

新留 琢郎氏
(熊本大学大学院先端科学研究部教授)



「SILK on VALLEY 最新情報」

島田 裕太氏
(㈱あつまる山鹿シルク代表取締役社長)



シンポジウムの最後に
山鹿のお蚕さんの糸で手織した
着物と帯の制作ストーリー
ショートフィルムにて紹介

〈関連イベント〉

糸紡ぎ実演・体験

とき 令和5年10月15日(日)
11時00分～13時30分
場所 山鹿市民交流センター ホワイエ



長野濬平翁パネル展

とき 令和5年10月10日(火)
～10月15日(日)
場所 山鹿市民交流センター ホワイエ

参加お申込み

お申込フォームより
お申込みください▼



郵送やお電話でもお申込みできます。

電話 TEL. 096-324-7600(㈱マインド 平日9:00～17:00)

郵送 ハガキ又は便せんに参加者全員の「お名前、電話番号、年齢」を記入の上、下記までお送りください。

〒860-0051 熊本市西区二本木3丁目7-37

長野濬平翁生誕200周年記念シンポジウム受付窓口(株式会社マインド)宛

裏面
長野濬平翁とは?▶

申込締切

10月6日(金)

2023年10月15日(日) シンポジウム開催！ 長野濬平翁とは？

今年で
生誕200年



山鹿市鹿本町庄出身

熊本蚕糸業の偉大なリーダー

ながの

しゅんぺい

長野
濬平

(一八二三～一八九七)

偉業 01 熊本県が養蚕で豊かになるよう力を尽くした

江戸末期から明治にかけて、生糸(絹)は日本の外貨獲得の重要な品物でした。濬平は養蚕によって地域を豊かにするよう熊本県に提言するとともに、それを自ら率先して蚕業の発展に力を尽くしました。

偉業 02 蚕の飼育日数を短縮する方法を普及させた

蚕業の先進地の群馬や長野へ出向き、火力飼育法を導入し蚕の飼育日数を短縮する方法を学び、それを県内に普及させました。この方法は炭火と換気によって蚕室の温度・湿度を調節するもので、蚕の生育を早め、飼育の効率を向上させました。

偉業 03 幾多の苦難にもめげず熊本県を代表する製糸会社を創立

製糸工場を設立するも天災や資金難で倒産の憂き目にあいます。それも一度や二度ではありませんでした。さらには養子に迎えた長男も群馬県富岡で客死するなど、苦難が続きます。それでもめげることなく、熊本県を代表する製糸会社を創立するにいたりました。



熊本県は西日本最大の

養蚕・製糸県へ

生産のピークであった大正14年(1925)には県内に35の製糸工場が稼働し、熊本県は西日本最大の養蚕・製糸県となりました。鹿本郡内(現在の山鹿市の大半)にも7つの工場が稼働していました。また、同郡内の養蚕農家は7,000戸を超え農家の収入を支えたのです。

詳しくは10月15日(日)午後1時30分からの長野濬平翁生誕200周年記念シンポジウムで！